

第2次喜茂別町教育振興基本計画（概要版）

1. 計画の趣旨と背景

本計画は、喜茂別町の教育行政における最上位計画であり、令和8年度から令和12年度までの5年間を対象とします。人口減少や少子化、価値観の多様化、情報化の進展など、教育を取り巻く環境が複雑化する中、前計画の成果と課題を踏まえ、学校・家庭・地域が一体となって「自立」と「共生」を柱とした教育を推進するための指針として策定されました。

2. 教育の基本理念と目標

本町の教育目標である「先人の開拓精神を受け継ぎ、心身ともに健康な人間として住みよい町づくりに貢献する町民の育成」を原点とし、以下の2つの理念を掲げます。

- **【自立】**：「自ら考え行動し、変化に対応するしなやかな力を持ち、未来を切り拓く人材の育成」
- **【共生】**：「多様性を認め合い、支え合いながら、自然と人とのつながりを大切にする地域社会の担い手の育成。」

これらを実現するため、以下の5つの基本目標を設定します。

1. 変化の激しい社会で生きる実践力の育成
2. 子どものウェルビーイング（心と体の豊かさ）の実現
3. 信頼と共感でつながる学校づくり
4. 地域で子どもを育てる社会システムの構築
5. 地域と共に学び続ける生涯学習の社会

3. 現状と課題

(1) 学校教育

- **現状**：少人数教育の良さを活かしつつ、GIGAスクール構想による一人一台端末環境が整備されている。
- **課題**：基礎学力は定着しているが、学んだ知識を活用し、自分の考えを表現する力の向上や、家庭学習の習慣化、不登校・心のケアへの対応、老朽化した施設の計画的整備が求められている。

(2) 社会教育

- **現状**：農村環境改善センター等を拠点に生涯学習や文化・スポーツ活動が行われている。

- **課題**：働き世代・子育て世代の参加促進、指導者の確保・育成、施設の老朽化対策と ICT 活用環境の整備が急務である。

(3) 家庭・地域

- **現状**：地域住民の協力体制はあるが、家庭教育への不安や、活動の担い手不足が課題となっている。
- **課題**：学校と地域の連携を深め、持続可能な協力体制の構築と、双方向の情報共有が必要である。

4. 基本目標別の施策展開

基本目標 1：「変化の激しい社会で生きる実践力の育成」

- 義務教育 9 年間を見通した基礎学力の定着と授業改善。
- 探究的な学習や、ICT を活用した個別最適な学びの推進。

基本目標 2：「子どものウェルビーイング（心と体の豊かさ）の実現」

- 対話を重視した授業やグループ活動による心の健康育成。
- いじめの未然防止、不登校児童生徒への柔軟な支援体制の強化。

基本目標 3：「信頼と共感でつながる学校づくり」

- 学校評価や SNS 等を活用した、わかりやすく開かれた学校運営。
- 教職員の働き方改革と、小中一貫教育の推進による教育課程の接続強化。

基本目標 4：「地域で子どもを育てる社会システムの構築」

- 学校運営協議会の機能強化と、地域資源を活用した体験活動の創出。
- 地域全体で見守る安全・安心な環境づくり。

基本目標 5：「地域と共に学び続ける生涯学習の社会」

- 子育て世代・働き世代も参加しやすい講座の工夫やオンライン対応。
- 読書活動の推進と、社会教育施設の学習・交流拠点としての機能強化。

5. 計画の推進体制と点検・評価

- **推進体制**：教育委員会が中心となり、学校・家庭・地域が役割を分担して推進する。
- **点検・評価**：毎年度、学力調査や質問紙調査、学校評価等をもとに点検・評価を行い、その結果を教育委員会や学校運営協議会で共有する。
- **見直し**：社会情勢の変化や評価結果を踏まえ、必要に応じて中間見直しを実施し、計画の実効性を高める。